Candidates for Intensive Local Treatment in cIIIA-N2 Non-Small Cell Lung Cancer: Deciphering the Heterogeneity

メタデータ	言語: English
	出版者:
	公開日: 2017-03-20
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 堀之内, 秀仁
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002066

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 1897 号

Candidates for Intensive Local Treatment in cIIIA-N2 Non-Small Cell Lung Cancer: Deciphering the Heterogeneity

（多様な臨床病期 IIIA、N2 リンパ節転移陽性非小細胞肺癌患者における局所治療強化候補症例の選択法に関する研究）

堀之内　秀仁（ほりのうち　ひでひと）

博士（医学）

論文審査結果の要旨

本論文は、多様な病態、病変の分布を含む、臨床病期 IIIA-N2（cIIIA-N2）非小細胞肺癌（NSCLC）に関して、さらなる集学的治療の開発の基礎となる知見を得るべく実施された研究成果をまとめたものである。この患者に対しては、治療成績向上を目指して、手術の追加、放射線治療の高線量化等が試みられたものの、いずれも標準的な化学放射線療法（CRT）を上回る成果をもたらしていない。その背景には、cIIIA-N2 NSCLC のなかで局所治療強化の意義がある患者群とそうでない患者群が混在するという多様性 heterogeneity の問題が存在している。そこで、本研究では集学的治療、特に局所治療強化の候補となりうる患者群を選択するための詳細な解析が実施された。1997 年から 2010 年に、国立がん研究センター中央病院において cIIIA-N2 NSCLC に対して CRT を実施された cIIIA-N2 NSCLC 148 人を対象として、詳細な臨床、病理学的な検討が実施され、無増悪生存期間、全生存期間いずれも、限局した LN 転移範囲、非浸潤型の LN 形態を有する患者群が予後良好であった。この予後良好な患者群においても、放射線照射野内の局所初再発が少なからず起こっていることも合わせて明らかにされた。これらの知見により、cIIIA-N2 NSCLC のうち、CRT を受けた患者のなかでも予後良好で、かつ局所再発が起こりやすく、手術を中心とした集学的治療実施の意義が大きいことが示唆される患者群を同定することが可能となった。

よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。